

下大和田谷津田だより

2002年10月号

第16回YPP報告 さあ刈ろうみんなで育てたみんなの稲！ 9月14日 曇り

予報だと絶対に雨、それでも降られないのがYPPのイベントです。今年も無事稲刈りが終わりました。

小さなお子さんから年輩の方まで30名を超える方々が鎌を握って次々と刈っていきます。稲刈りをはじめて体験する人は、まず地元の方に刈り方を教えていただきました。最初はこわごわ、でも最後にはサクッ、サクッと心地よい音をリズムカルに立てて刈れるようになりました。稲をかけたオダ木が折れたり、オダが将棋倒しになったりとアクシデントの連続でしたが、それもご愛敬。ワイワイ楽しい稲刈りでした。刈り終わったオダ掛けの田んぼの風景は心むむものです。きっとお百姓さんも同じ気持ちでオダを眺め、ほっとひと安心するのでしょうか。稲を見守ってくれたかかしに感謝。

子供たちは途中からザリガニ採りをはじめ、それをお昼のみそ汁が残った鍋に入れてゆでて食べました。結構おいしくて、あっという間に食べ殻の山ができました。稲刈りの終わった田んぼに現れたヒバカリという小さなヘビに子供たちは大喜び。ヘビに触るのが始めての子がほとんどでしたが、「かわいい！」となでたり、手に巻きついたり、大人気でした。

(参加者：大人22人・中高校生4人・小学生4人・乳幼児3人、報告：高山邦明)

脱穀しました！

9月22日 曇り

稲刈りの後、秋晴れに恵まれて順調に乾燥が進んだ稲を脱穀しました。昨年同様、地元の方に脱穀機をお借りして田んぼでの作業です。途中で脱穀機の調子が悪くなり、一時は中止せざるを得ないかと思いましたが、何とか復帰することができました。収穫高は30kg入りの袋5袋と1/4で、昨年とほぼ同量でした。作付け面積は昨年より2割くらい少なかったと思いますので、上出来ではないでしょうか。これもたくさんの方の協力と、下大和田谷津田の持っている土と水と太陽の恵みのたまものでしょう。収穫祭は10月13日です。新米の味をお楽しみに！

(参加者：14人、報告：田中正彦)

第32回定例自然観察会報告

9月1日 晴れ

季節のうつろいは、谷津田のあちらこちらで見られました。秋の花が咲き始め、実をしっかりとつけています。草ムラに巣を張ったナガコガネグモがひっかかった獲物を目にとまらぬ早さで、グルグルと糸をまきつけていました。次の世代へ命をつなぐ作業で、秋は静かめに忙しいですね。

<植物> アキカラマツ、アキノエノコログサ、アキノタムラソウ、アレチマツヨイグサ、アゼナ、アゼムシロ、イヌガラシ、イヌビエ、ウシハコベ、オオアレチノギク、オッタチカタバミ、オモダカ、カタバミ、カノツメソウ、キツネノマゴ、ゲンノショウコ、コケオトギリ、シマスズメヒエ、ジュズダマ、シロツメクサ、スカシタゴボウ、セリ、タカサブロウ、タコノアシ、タネツケバナ、チゴザサ、チョウジタデ、ツメクサ、ツユクサ、トウバナ、ノブドウ、ハハコグサ、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、ヘクソカズラ、ヤマノイモ、ユウガギク、ヨウシュヤマゴボウ、(初)イヌタデ、イノコヅチ、エノキグサ、エノコログサ、オオエノコログサ、オニノゲシ、オヒシバ、ガガイモ、カラムシ、クズ、コナギ、コニシキソウ、ザクロソウ、シラヤマギク、スズメウリ、センニンソウ、タイアザミ(トチアザミ)、チチコグサモドキ、チヂミザサ、ツルボ、ツルマメ、ニワホコリ、ヌスビトハギ、ノゲシ、ハッカ、マツパイ、メヒシバ、ヤブガラシ

<野鳥> スズメ、セッカ、ヒヨドリ、モズ

<昆虫> アオスジアゲハ、アブラゼミ、ウスバキトンボ、ウリハムシ、オオカマキリ、オオチャバネセセリ、オニヤンマ、オンブバッタ、キアゲハ、キタテハ、キチョウ、クロウリハムシ、コアオハナムグリ、コバネイナゴ、シオカラトンボ、ジャコウアゲハ、ショウリョウバッタ、スケバハゴロモ、スジグロシロチョウ、タケカレハ、チョウセンカマキリ、ツクツクボウシ、ツチイナゴ、ナツアカネ、ナナホシテントウムシ、ノシメトンボ、ハスジカツオゾウムシ、ヒメギス、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ

<クモ> アシナガグモ、コアシダカグモ、ジョロウグモ、ナガコガネグモ

<その他の生物> ニホンアカガエル

(「初」以下の植物は前回8月4日の観察会では開花が記録されなかったものです)

(参加者4人、報告：芳我めぐみ)

定例観察会と谷津田プレーランドプレイアウト(YPP)の活動を中心として、下大和田のようすを皆さんにお伝えします。皆さんのご投稿、ご意見をお待ちしています。 高山邦明